

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和 7 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 1 号を発表したので送付します。

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 1 号

令和 7 年 4 月 30 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4 月第 5 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 40.0%と、平年(26.8%)に比べてやや高いが、25 株当たり
の本田生息虫数は 1.6 頭と、平年(1.5 頭)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が 4 月 24 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照
時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田
防除を行う。

(2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4 月第 5 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 1.3%、発病葉率が 0.
0%、発病果率が 0.0%)。

(2) 前年 9 月第 3 半旬及び 10 月第 3 半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認め
ていない)。また、3 月第 3 半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期も発生を認めて
いない)。

(3) 高松地方气象台が 4 月 24 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照

時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(25.0%)並の発生であるが、発病葉率が0.5%と、平年(2.5%)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが、5月上旬頃まで飛散する可能性があるため、防除暦に準拠し、防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、4地点で越冬を確認した。越冬成虫数は0.2頭/㎡であり、平年(3.5頭/㎡)及び前年(成虫確認地点数は10地点、越冬成虫数は15.7頭/㎡)に比べて低い越冬密度であった。なお過去10年で最も低い越冬密度であった。

(2) 今春の予察灯調査において、上板町では、平年(4月22日)より1日遅い4月23日にチャバネアオカメムシの初誘殺を確認した。なお、4月第1半旬～5半旬までの誘殺数は、平年並に推移している(表1)。

(3) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
4	1	0	0	0	0	2	0
	2	0	0	0	0	1	0
	3	0	1	1	0	1	0
	4	3	108	2	1	1	0
	5	2	321	15	1	14	5
	6		1125	18		154	8
5	1		384	35		202	48
	2		148	36		89	28
	3		829	49		494	61

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	上板町			勝浦町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	1	0
	3	0	2	0	0	0	0
	4	0	6	1	1	1	0
	5	19	43	8	0	3	2
	6		54	8		40	4
5	1		12	9		229	37
	2		2	6		6	12
	3		20	12		271	26

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は早朝か夕方に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大いなので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7地点の平均)は、4月第5半旬まで平年に比べてやや多く誘殺されている(図1)。
- (2) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 性フェロモン剤を設置することで、雌雄間の交信を攪乱して、次世代幼虫の密度を低下させる。
- (2) 薬剤散布は6～8月を重点に3～4回実施する。

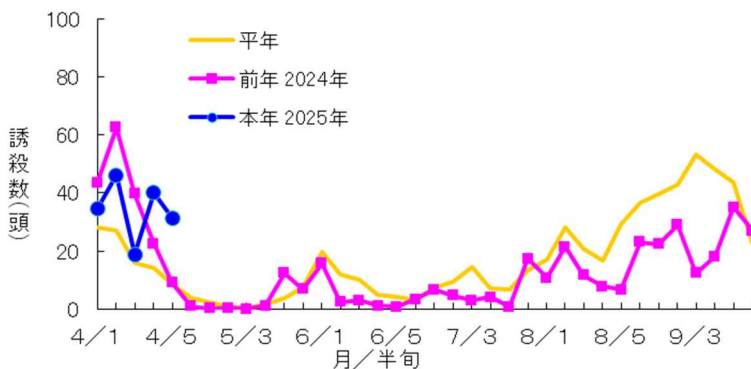


図1 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数推移
※ 鳴門市、松茂町の7地点平均

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.5%、発病株率が1.0%)。
- (2) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、圃場外で処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%、被害度は7.4と、平年(83.8%、6.2)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、被害度が0.2と、平年(49.4%、1.8)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が4月24日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。